

# なぎさ NEWS



## 今年もガザミが豊漁？

生き物調査では、「西なぎさ」を歩いて観察される生き物を記録していきます。夏の調査を、干潟が現れる8月22日の午前中に実施しました。夏の干潟ではカニたちが元気で、おなじみのコメツキガニ、オサガニ、ヤマトオサガニがさかんに求愛したりエサを食べたりする様子が観察できました。ところが、今回の調査ではあまり見慣れないカニの脱皮殻が目につきました。ガザミです。実は、昨年8月の生き物調査と今年6月の地曳網調査でも、それぞれ生きた個体1匹が記録されています。いずれも甲長（甲らの縦の長さ）が35mm以下の若い個体（成体では85mmに達する）でした。ガザミのなかまは、一番後ろの脚の先がうちわのような形をしており、これで水をかいて泳いで移動することから“渡りに”とも呼ばれます。そして、横方向に泳ぐのに便利な、横に長い船のような甲らの形をしています。食用となり、東京湾も良い漁場のひとつでしたが、今ではほとんど見かけなくなるほど減少してしまいました。ガザミは内湾の浅い海に生息するため、多くの干潟が失われた東京湾では当然のことかもしれません。今年、水族園が主催した千葉県富津市でのアマモ場の観察会でも、ガザミや近縁のタイワンガザミ、イシガニが観察されていましたが、東京湾の最も奥に位置する「西なぎさ」でガザミが見られたのは本当に意外なことでした。「西なぎさ」がガザミの成長に適した環境に変化してきたのでしょうか？

（教育普及係 池田 正人）



目についたガザミの脱皮殻。数は少ないが生きたものも

## なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、2017年の6月と8月に行った「西なぎさ」での地曳網調査と生き物調査の結果を報告します。



入道雲をバックに汗だくでの夏の地曳網調査

**6月地曳網調査：**水温21.0℃、気温20.0℃。梅雨入りらしく小雨が降る中での調査でした。春に生まれた魚が大きく成長しています。その中でも、4月の調査では全長1～2cm程であったマハゼが、最大6cm程に成長していました。また、昨年に続き今年もトラフグの稚魚が確認できました。

**6月生き物調査：**気温29.0℃。オサガニやヤマトオサガニ、コメツキガニなど「西なぎさ」を代表するカニが数多く見られました。コメツキガニのオスたちがはさみを振り上げては下ろす求愛の様子はずっと見ていて飽きることがありません。

**8月地曳網調査：**水温30.0℃、気温28.5℃。「西なぎさ」は海水浴に訪れた人などでとても賑やかでした。地曳網では約30種の生き物が採集され、海の中も賑わっているようです。コショウダイの幼魚やサッパなど、夏ごろにはしか見られない魚が多く、その中でもギマは100個体以上が採集されました。

**8月生き物調査：**気温32.0℃。夏休みも終わりに近づき、人がすっかり少なくなった「西なぎさ」ではカニたちが相変わらず活発に動きまわっていました。波打ち際での採集では6月には見られなかったマゴチやコショウダイの幼魚などが採集されました。また、殻長3mmほどのアサリの稚貝も数多く見られました。